

特定行為技術論（高度実践）

[講義・演習] 1年・2年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
石角 鈴華 [ishizumi-re@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

NPとして臨床実践における特定行為について、エビデンスに基づいた技術を習得することを目指す。単に特定行為を学ぶのではなく、看護師-患者の信頼関係の構築から、アセスメント、行為実施の判断、患者への説明、実施、評価の流れを演習にて学修する。

【学修目標】

- エビデンスに基づいた医療提供及びTheory-Practiceギャップについて理解する。
- 保助看法における特定行為の位置づけを理解し、NPとしての責任範囲を説明できる。
- 各手技を行う際の患者に説明ができる。
- 特定行為として、以下の行為の一連の流れについて事例を想定し、シミュレータを用いて実施し、技術を習得できる。
 - 気道確保
 - 気管カニューレの交換
 - 胃婁（腸瘻）カテーテルの交換
 - 末梢中心静脈カテーテルの挿入
 - 中心静脈カテーテル抜去
 - 橈骨動脈カテーテルの挿入
 - 褥瘡のデブリートメント

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	特定行為技術概論	【対面】 ・ Theory-Practiceギャップ ・ エビデンスと技術習得 ・ 看護師-患者の信頼関係の構築 ・ 保助看法における特定行為の位置づけ	塚本 石角
2 3	特定行為技術各論：気道確保・管理	【演習】 気道確保が必要な患者の事例を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 ・ 気道確保の必要性判断 ・ 気道確保の実施・評価の一連の過程	三浦美英（特別講師） 塚本 石角
4	特定行為技術各論：気管カニューレの管理	【演習】 気管カニューレを挿入している患者の事例を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 ・ 気管カニューレ交換について患者説明 ・ 気管カニューレの種類と選択 ・ 気管カニューレの交換手技 ・ 気管カニューレの挿入確認 ・ 気管カニューレ交換のトラブルシューティング	樋口秋緒（特別講師） 塚本 石角
5 6	特定行為技術各論：胃婁・腸瘻カテーテルの交換	【演習】 胃婁・腸瘻カテーテル（ボタン）を挿入している患者の事例を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 ・ 胃婁・腸瘻カテーテル交換について患者説明 ・ 胃婁・腸瘻カテーテルの種類と選択 ・ 交換手技 ・ 胃婁・腸瘻カテーテルの挿入確認 ・ 胃婁・腸瘻カテーテル交換のトラブルシューティング	野島弘基（特別講師） 塚本 石角
7 8	特定行為技術各論：末梢中心静脈カテーテル（PICC）の挿入と管理	【演習】 PICCの挿入が必要な患者を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 ・ 血管アクセスデバイスの種類と選定 ・ PICC挿入について患者説明	塚本 石角

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・挿入部位の選定 ・挿入手技 ・適切な位置に挿入されているかの確認 ・PICCの固定 	
9	特定行為技術各論：中心静脈カテーテルの抜去	【演習】 中心静脈カテーテル抜去が必要な患者を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心静脈カテーテル抜去の患者説明 ・挿入されている中心静脈カテーテル種類の確認 ・中心静脈カテーテルの抜去手技 ・抜去後の管理 	塚本石角
10	特定行為技術各論：橈骨動脈カテーテルの挿入	【演習】 橈骨動脈カテーテル挿入が必要な患者を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・橈骨動脈カテーテル挿入について患者説明 ・挿入部位の選定 ・挿入手技 ・橈骨動脈カテーテルが適切な位置に挿入されているかの確認 ・橈骨動脈カテーテルの固定 	塚本石角
11	特定行為技術各論：栄養療法と脱水の補正	【演習】 高カロリー栄養療法及び脱水の補正が必要な患者を想定し、事例検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と栄養療法：高カロリー輸液の選択 ・脱水の補正：熱中症、腎機能障害、エンドオブライフにある患者 	塚本石角
12) 15	特定行為技術各論：褥瘡のマネジメント	【演習】 褥瘡のある患者を想定し、シミュレータを用いて演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・デブリートメント必要性の評価 ・デブリートメントについて患者説明 ・デブリートメントの方法 ・出血の際の止血方法 ・デブリートメント後の処置 	安部正敏（特別講師） 塚本石角

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 30%、実技試験70%にて評価する。

【教科書】

古谷伸之編(2007). 診察と手技が見える vo.1 . MEDICMEDIA.

医療情報科学研究所編(2010). 診察と手技が見える vo.2 . MEDICMEDIA

【参考書】

必要な文献・資料を熟読しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。